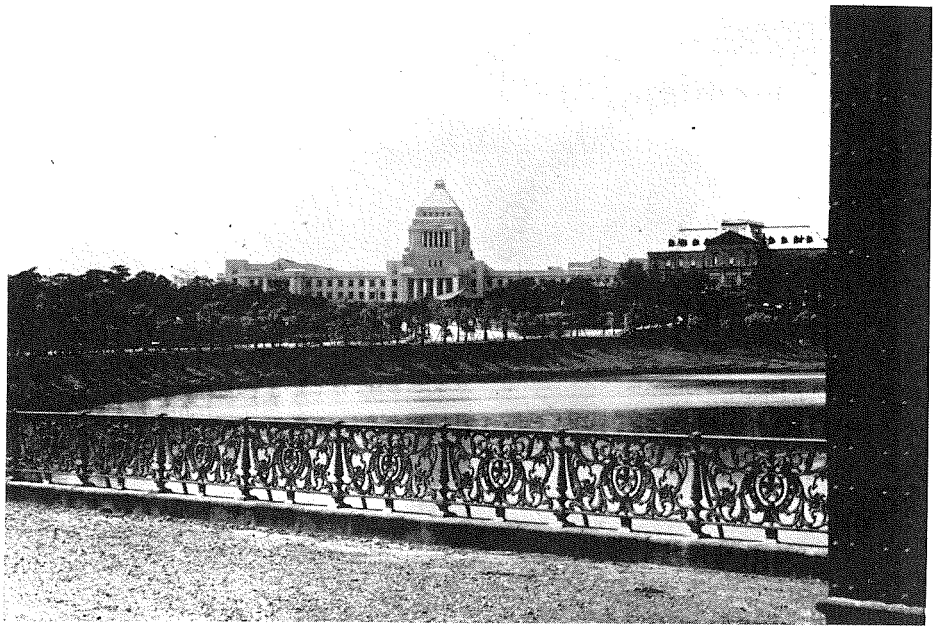

新議事堂の竣工に際して

大正七年六月、麹町區永田町の高臺に工を起して以來、十有九年の歳月と國帑二千六百萬圓を費して、帝國議會議事堂の建築は茲に美事落成を告げ輪奐の美あたりを壓するこゝなつた。

かえりみれば明治十四年、畏くも明治大帝が民心の趨向と時代の傾向を叡察し給ひ、明治二十三年を期して國會を開設する旨の勅諭を下し給ふてより、議事堂の建築は明治十九年井上馨を總裁とする臨時建築局の開設に端を發し、爾來幾度となく計畫せられたのであつたが、大正七年大藏省に臨時議院建築局が設けられるまで、遂に本建築の機運に惠まれず憲政發祥以來昭和十一年の今日に至る四十幾星霜と云ふものは一時的假建築を以て當面の用に供し來つたのである。

茲に本誌は此記念すべき大建築の落成に當り、議事堂建築に生涯を捧げられた大藏省營繕管財局工務部長大熊喜邦博士に乞ひ、本號を新議事堂特輯號とした。博士は明治四十三年始めて議事堂建築の準備設計にかゝられ爾來二十有七年、大正七年愈々起工してより十九年間、身を議事堂建築に捧げ苦心經營今日に至つた人で、當時三十一才白面の青年技師であつた博士も今や爲に雲髪半ば化して白霜となられた事を忘れてはならぬ。

而して特筆せねばならぬのは、此世界に誇るべき大議事堂の建築が、日本人の設計に依り、日本產の材料に依り、日本人の施工に依り卽ち全部が國產によつて完成せられた事である。此建築が我國の建築界を如何に稗益し發達させたかは今更言を俟たないのである。